

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	Workshop RNC			
○保護者評価実施期間	令和 8 年 6 月 1 日		～	令和 8 年 6 月 19 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 名	(回答者数)	9 名
○従業者評価実施期間	令和 8 年 6 月 1 日		～	令和 8 年 6 月 20 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 名	(回答者数)	7 名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 6 月 20 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共生型ということを大事に多世代交流を積極的に行っている。	多世代が同じ時間を共に過ごすことで自然な交流を生み出している。 自然に顔を合わせる環境が、安心できる関係づくりに繋がっている。高齢者の方に子どもたちを見守っていただく役割も担っていただくなど、お互いに良い影響を与え合い心地よい居場所となっている。	高齢者の持つ昔の知恵（昔遊び、手芸、料理など）を子どもたちに伝えていく場となるよう努めていきたい。 高齢者の方々にも子どもたちの見守りに入っていただき、役割を持って過ごしていただくことで、子どもたちが大人の方々との接し方などを学ぶ場にしていく。
2	児童福祉、高齢者福祉に携わってきたスタッフがそれぞれの専門性を活かし、一人一人に対して多岐に渡る視点で支援にあたることができる。	高齢者と子どもたちが同じ空間で生活をする為、動きや関わり方などに細心の注意を払い、危険性が無いようスタッフが支援にあたっている。	活動等スペースなどの整備をまめに行い、子どもたちが自由に動ける空間確保に努める。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通信やお便りは発行していない。	日々の活動は、写真や動画などでお知らせしている。ただ全体的様子や具体的な課題などを伝える機会が少ない。	日々の活動に対して、どのような支援プログラムに沿って実施されているのかなど、活動の目的や効果などの説明が必要。 定期的に、お便りを発行することでWorkshop RNC全体の様子をより詳細にお伝えすることができる。保護者の方々に子どもの様子がより伝わることで安心してもらえるような支援を行うよう努めていきたい。
2	定期的に面談や子育てに関する助言等の支援を行う。	送迎時にその日の様子や、子育てに関する助言等を行っているが、必要に応じ面談を実施しているが定期的には行っていない。	保護者からの相談を受けた際、必要な情報を必要な相手に共有できるよう知識を持っておくこと、そして最適なタイミングを見極めた上での支援を行っていく。
3			